

Volunteer Guide

多様な世界に出会い、人生の可能性を広げよう！



立教大学

ボランティアってなんだろう？

ボランティア(volunteer)は、「自由意志」を意味するラテン語の「voluntas」が語源と言われています。解釈はいろいろありますが、立教大学ボランティアセンターでは、ボランティアについて次のように考えています。

バリアフリーワークショップ



人と出会う

ボランティア活動の本質は「人」との出会いです。活動の場やそのプロセスでつながる人たちから私たちは多くを学び、多くの力を得ます。

ボランティア論授業



知を学ぶ

ボランティア活動は「個」を乗り越える知恵を求め、共に生きようとする知識を生み出します。

バリアフリーイベント



場に育つ

ボランティア活動の「場」には力があります。困難から立ち上がろうとする力、生きる場を守ろうとする力、豊かな人間性を求めて挑戦する力が生まれます。

スポーツ大会



仲間をつなぐ

ボランティア活動には人を「つなぐ」力があります。一人の小さな力が動き出すとき、そこに連なる人を動かす力を紡ぎます。

ボランティア活動がもつ4つの特性

自発性

自分の意志で動きはじめよう！

ボランティア活動は、強制されるものでも義務でもなく、自ら進んで行う活動です。自らの「やってみよう」から始まるからこそ、大きな力や自由な発想、自分の個性を発揮できます。無理して始めるのではなく、自分のタイミングで、できることから始めてみましょう。

社会性

自分の役割を探そう！

社会や組織の中では、誰にでも自分の役割があります。他者との関わりの中で自分の役割を見つけたとき、そこがあなたの「居場所」になります。焦らずゆっくり探しましょう。

無償性

大切なものとの出会い！

自分の行動に対する見返りを求めないことで、自分の想像を超えた世界や発見に出会うことがあります。社会や他者との関わりを通して金銭的な報酬よりもっと大切なものが見つかるはずです。

互惠性

「生かし、生かされる」関係へ！

はじめは、「誰かを助けて」という気持ちでも、気が付けば、自分が教えられることの連続だった。そのような、お互いが「生かし、生かされる」関係を実感できる、それが「共に生きる」ことの原点です。

立教大学ボランティアセンター ミッションステートメント

MISSION

立教大学はキリスト教に基づく建学の精神を具体化したものの一つとして、「共に生きる」ことを重視しています。立教大学ボランティアセンターは「共に生きる」を礎に、学生が他者との関わりや社会的な課題に取り組むことを通して、人間としての成長とよりよき社会の実現を目指す意志の育成を図ります。

立教大学ボランティアセンターはこのミッションの下、皆さんを支援します。

- 1 学生個々の支援**
(相談業務、ボランティア・カフェの開催、個の支援)
一人ひとりの学生に寄り添い、ボランティア活動の理解を促進します。社会のニーズと学生のニーズをきめ細かくコーディネートし、多種多様な情報の中から適切な情報提供とアドバイスを行います。
- 2 多様なニーズに対応した体験機会の提供** (1day ボランティア)
急変する社会のニーズやグローバル化する世の中の動きに素早くかつ柔軟に対応し、さまざまな体験の機会を提供します。
- 3 学生ボランティアサークルの支援**
(ボランティアオリエンテーション、登録団体制度)
立教大学でボランティア活動を行う学生サークルをつなげ、それぞれの特徴・伝統を生かしながら発展していけるよう支援します。
- 4 独自のプログラムや学びの場の提供**
(キャンプ・授業)
学生が現場に足を運び、自分の目で確かめ、行動・実践しながら学んでいく、主体的な学びができるボランティアセンター独自のプログラムを実施します。また授業の実施などを通じて、社会の現場を知る機会を提供します。
- 5 立教大学他部局との協働**
(学内の協力連携)
学内のさまざまな学生支援部局や立教サービスラーニング(RSL)センターとの協働・連携を推進し、多角的に学生をサポートします。
- 6 地域連携**
立教大学周辺の地域(池袋・新座)の課題に向き合い、共に連携します。

ボランティアを探してみよう！

皆さんの希望や興味に合わせて、多くのボランティア情報の中から自分に合ったフィールドを探してみよう。あなたの人生に良い影響を与えてくれる大切な出会いにつながることも少なくありません。

1

何をしようかな？

大まかなイメージを描いてみよう

ボランティア活動にも様々な種類があります。あなたが興味をもつテーマ、関心のある分野は何でしょうか。まずは自分自身に問いかけてみてください。あなたに適したフィールドを見つけるのはじめの一歩になります。

主なボランティアの種類

多種多様なタイプがあります

[保健・医療]		[高齢者]	[しょうがいしゃ]	[社会教育]
[まちづくり]		[農山漁村または中山間地域の振興]	[環境保全]	[文化・芸術]
	[子ども]		[地域安全] (防災・減災)(防犯)	[情報 (IT)]
	[観光]		[消費者保護]	
[スポーツ]	[科学技術]	[災害救援・復興支援]		
[人権・平和]	[国際交流・国際協力]	[男女共同参画社会]		[その他]

ボランティア活動を探すときのポイントは？

自分なりに活動イメージを思い描いてみましょう

[いつ？] 春休み、夏休み、秋休み、冬休み、週末…	[どこで？] 大学周辺、自宅の近く、被災地、郊外、海外…	[活動ペースは？] とりあえず1回、週に1回、1カ月に1~2回、行けるときに行く…
[対象は？] 子ども、しょうがいのある方、被災した方、教育機会の少ない方、高齢の方、外国籍の方…	[内容は？] 学習支援、交流支援、居場所づくり、スポーツ競技のサポート、文化交流、農業…	[費用は？] 交通費、参加費…

2

どうしたらいいんだろう？

ボランティアコーディネーターに相談してみよう！

池袋・新座のボランティアセンターには、専門職のボランティアコーディネーターがいます。「ボランティア活動してみたいけど、どんなことが自分にできるのか想像できない」「実際にどのように動けばいいのかわからない」「情報が多すぎてそれぞれの違いがわからない」など、様々な疑問や不安に寄り添いながら、みなさんが自分に合った活動先とつながることができるようにサポートします。ぜひ一度ボランティアセンターにお越しください。

コーディネーターの声

【 授業だけでは得られない心豊かな経験を 】

キャンパスの外、海に向こう側にもたくさんの世界が広がっています。課外活動のひとつの選択肢・ボランティアを通じて、新しいつながりや仲間をつくり、大学時代という人生の宝物のような日々を、カラフルに過ごしませんか。みなさんとお会いできるのを楽しみにしています。

ボランティアコーディネーター(池袋)
広瀬 かりりさん



コーディネーターの声

【 ボランティアセンターは、“想いをカタチに変える場所” 】

ボランティアコーディネーターは専門性を生かしながら、みなさんと一緒にその実現を目指していきます。これから何かを始めたい、こんな活動に参加してみたい、参加した活動のことで悩んでいるなど、多様な相談にお応えしますので、まずはボラセンでお話ししてみましょう。お待ちしております！

ボランティアコーディネーター(新座)
齋藤 元気さん



3

さあ、やるぞ！

フィールドへ飛び出そう！

ボランティア活動には、プログラムへの参加やサークル加入をはじめ、多くの入口があります。豊富な情報と幅広いネットワークを生かし、ボランティアセンターでは皆さんが活動する場を数多く提供しています。

ボランティア活動の心得

一人ひとりが、立教大学の代表者としての自覚を持って！

ボランティアの活動現場には、多くの人に関わっています。活動先のスタッフもボランティアも、責任の重さは変わりません。事前の準備、活動中の心構え、常識的なマナーなど、以下の6つの心得に注意して、積極的に活動に取り組んでください。

基本中の基本！

無断欠席・遅刻をしない！！

遅刻・欠席の時は必ず活動先に連絡をしてください。ボランティア活動には責任が伴います。

一人で悩まず、相談する！

困ったことは、活動先やボランティアセンターに相談してください。

相手の気持ちを考えて行動する！

思い込みで行動するのではなく、相手の気持ちを考えて行動してください。

挨拶はすべての基本！

気持ち良い挨拶を心がけ、活動中は周りの状況を見て行動してください。

個人情報の扱いに注意！

活動で知り得た個人情報は、本人の同意なしにSNS上に投稿してはいけません。また、個人の連絡先（SNS等のアカウントを含む）を伝えてはいけません。

活動前にはしっかり準備をする！

事前に情報を集め、正しく理解し準備してください。事前説明会・研修会には必ず参加してください。

コロナ禍での活動について

本学では、ボランティア活動は、正課外教育(課外活動)として位置づけています。大学の新型コロナウイルスの社会的状況に応じた活動制限指針において、制限レベルが1以上の場合は、下記リンクにある「課外活動マニュアル」のルールに従って活動してください。(随時更新されています。)
<https://discovery.rikkyo.ac.jp/news/>

(通称：ボラセン)

ボランティアセンターってどんなところ？

立教大学ボランティアセンターでは、学生のみなさんがボランティア活動を通して学び、成長し、新たな社会を創っていくことができるようにサポートしています。みなさんの意志や想いをカタチにできるようにアドバイスをしたり、実現に向けて一緒に取り組んだり、活動の場を用意したりしていますので、ぜひご活用ください！



池袋キャンパス5号館1階



新座キャンパス7号館2階

このミッションのもと、皆さんを支援しています！

立教大学ボランティアセンター ミッション・ステートメント

立教大学はキリスト教に基づく建学の精神を具体化したものの一つとして、「共に生きる」ことを重視しています。立教大学ボランティアセンターは「共に生きる」を礎に、学生が他者との関わりや社会的な課題に取り組むことを通して、人間としての成長とよりよき社会の実現を目指す意志の育成を図ります。

ボランティアセンターは今年度で20周年です！

2023年度はボランティアセンター設立20周年の年です。これまでの20年間、チャペルでの活動を含めると30年間、様々な先輩方、学生諸君がこの道をつくり、多くの方々との関係によって、この道が彩られてきました。

ボランティアは「人と人をつなぐ」と言いますが、立教大学の基礎となっているキリスト教聖公会も異なる宗派をつなぐ Bridged Church と呼ばれています。今はコロナ禍で途切れてしまった関係を新たに紡ぎ直しているところですが、これまで「ボラセン」を支えてくださった皆様への感謝の気持ちを胸に、立教のボランティア活動を再度盛り上げるべく、様々な企画を考えています。

立教は「人の役に立ちたい。自分に何かできることはないか」と考える学生が非常に多いと感じていますが、そんな皆さんの最初の一步を全力でサポートしたいと思います。

自ら動くことで新しい世界が開く、それがボランティアです！
気軽に相談に来てください。スタッフ一同お待ちしております。

ボランティアセンター 主幹
佐々木 ルリ子さん



ボランティア活動をしたい・している学生のための多様なサポート

SUPPORT 1 ボランティアコーディネーターによるボランティア相談



専門職のボランティアコーディネーターが、一人ひとりの学生の想いに寄り添い、ボランティア活動の始め方から活動上の悩み・課題についての相談まで幅広くアドバイスしています。社会ニーズの変化も捉えながら、ボランティアセンターに寄せられる多種多様なボランティア募集情報を紹介していますので、気軽にご相談ください。

SUPPORT 2 豊富なボランティア関連情報の配架



ボランティアセンター内のラックには、学内外からお寄せいただくボランティア募集情報や助成金・補助金情報、研修・イベント情報などのポスターを配架しています。自由にご覧いただき、関心のあるものがございましたらお持ち帰りください。

SUPPORT 3 ミーティングスペースの貸し出し

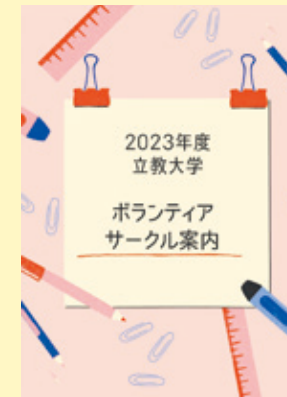


池袋キャンパス

新座キャンパス

池袋キャンパスではボランティアセンター内に、新座キャンパスではボランティアセンターと隣接した場所にミーティングスペースがあります。事前に予約すれば使用することができますので、ボランティア活動に取り組む学生サークルのみなさんはぜひご活用ください！

SUPPORT 4 ボランティア活動に取り組む学生サークルの支援



主に新入生向けに配布している冊子

ボランティアセンターに登録している学生サークルに対して、同じようにボランティア活動に取り組むサークル同士がつながり、互いに高め合えるように、情報共有や交流の機会を設けています。2022年度は「立教生ボランティア活動報告会」を開催し、多くの学生サークルが一年間の取り組みの成果や課題を学内外に発信しました！

その他、ボランティアセンターの登録サークルにボランティア関連情報を共有するためのメーリングリストなども運用し、日常的に活動をサポートしています。団体立ち上げのサポートやボランティアセンターへの新規団体登録も受け付けていますので、ぜひご利用ください！

立教ボラセン主催の各種講座

ボランティアを知る

動くことで学ぶ・関わる

社会に参画する・創造する

SESSION 1 立教生ウクライナ支援ボランティア参加報告会



第二次世界大戦後最大規模の人道危機に発展しているウクライナ…個人の直接的な支援が難しい状況の中、現地で避難民支援のための活動を行うプログラム「The Volunteer Program for Ukraine」(日本財団ボランティアセンター主催)に参加した立教生が2名いました。報告会では、現地の様子や活動を通して感じたことなどをお話いただきました。



約2週間、ウクライナ国境に近いポーランド南東部の都市ブシェミシルを拠点として、主に子どもたちとの交流や施設の清掃、物資・備品の管理等を行ったという具体的な活動内容に続き、参加のきっかけ、現地でのコミュニケーションの取り方やその際の気配り、苦労したこと、活動を通じての考え方の変化などについての質疑応答がありました。ファシリテーターの中沢先生(立教サービスラーニングセンター特任准教授)からは、ルーマニアのNGOとともにウクライナ国内外で避難民の支援をしていたご自身の経験をもとに、「特別なニーズ(しょうがい、病気等)のある人たちへの支援」についてもお話いただきました。

平和とは何か、支援とは何か…等を考え、行動し続けたことで得られたこの活動経験を風化させないという力強さが感じられ、参加した会場のみなさんと共に「自分たちでできること」を考える機会となりました。

参加者の声

経験や感情の共有によって寄り添い合う 立教生ウクライナ支援ボランティア参加

日々テレビやSNSで見るウクライナの様子を見て、私に何かできることはないかという思いを胸に今回のボランティアに参加しました。正直にお話すると、実際の現場では自分に何ができるのか分からず静かに焦りました。言葉も卓越した技術もない私が彼らの助けになるのだろうか。そんな時、「日本から来たの?」と子ども達が声を掛けてくれました。元気な子ども達を見て安心したと同時に、彼らのことをもっと知りたいなと思い、一緒に折り紙やお絵描きをしました。ウクライナ語と日本語、お互いの言語が分からなくてもこんなに楽しく会話できるのだと知った瞬間でした。

自分にとっての日常が突然失われた時、人は何を思うでしょうか。喪失感、悲しみ、怒り。様々な感情が生まれ、それでも前を向かなければならない。

今回の活動では、なぜ学生が派遣され、目的や方法をゼロから模索するという経験をしたのか。私の中で1つ出ている答えは、「皆同じ地球の上で生きている」ということ。言い換えるとしたら、経験や感情の共有によって寄り添い合うということになるでしょうか。

心と言葉を持つ私たち人間だからこそできることです。今回の経験をこれからも忘れずに、たくさんの人に寄り添える人間になりたいと思います。

文学部
キリスト教学科3年
水流 実咲さん



※学生インタビューの表記(学部・学科等)は撮影当時のものです。

SESSION 2 ボランティア論 ~転換期を迎えた社会で求められること~ (全学共通科目 コラボレーション科目)



毎回、多様な分野で活躍する講師から、ボランティア最前線の話を知ることができます。ステレオタイプなボランティアだけでなく、スポーツボランティア、企業のCSR活動など、ボランティア活動が多岐にわたっていることを実感し、ボランティアの「多様性」について理解します。社会問題を自分の頭で考え、自分と社会との接点を意識する機会となり、毎年、この授業をきっかけにボランティア活動を始めて新しい世界を広げる学生もたくさんいます。

先生の声

皆さんは、「ボランティア」に興味や関心がありますか?そして、ボランティア活動とは何をどうすることなのか?と考えることがありますか。ボランティアセンターが企画運営する全カリ科目「ボランティア論」では、毎回さまざまな現場でボランティア活動を展開しているゲスト・スピーカーから「私が実践しているボランティア活動」についてお話を伺うことができます。おそらく、「無償で人のため尽くす活動」と言った従来のボランティア観がきつと揺さぶられる学びができると思います。今は何となくでもボランティア活動が気になる学生の皆さんの積極的な参加をお待ちしています。

コミュニティ福祉学部
教授/
ボランティアセンター
副センター長
結城 俊哉先生



SESSION 3 災害救援ボランティア講座

2003年のボランティアセンター設立時から、防災・減災や災害時対策の普及・啓発を行っている「災害救援ボランティア推進委員会」と共同で、災害救援ボランティアの基礎的な知識とスキルを習得できる「災害救援ボランティア講座」を開催しています!災害ボランティアについてだけでなく、日常の場面で想定される応急手当なども学ぶことができ、修了者には、災害救援ボランティア推進委員会より「セーフティリーダー認定証」が、東京消防庁より「上級救命技能認定証」がそれぞれ授与されます。多くの立教生・教職員が講座を修了し、各地で活躍しています。本学に限らず様々な場所で開催されている講座ですが、立教大学で開催する際には、本学学生・教職員に対して先着20名までは大学から受講料を補助いたしますので、「無料」で受講することができます。人気の講座なので、お申し込みはお早めに!



● 主な内容

応急手当活動(上級救命技能講習)、災害救援ボランティアの基本、出火防止と初期消火、災害ボランティア活動ケースワーク、災害と防災対策の基本、災害模擬体験と実技(地震・消火・煙等体験)、大学・学生・地域による復興支援と防災活動、災害ボランティア活動の安全衛生と図上演習等
その他にもボランティアセンターでは、様々な講座の開催、一部検定の受講料補助をしていますので、関心のある方はボランティアセンターでご相談ください!

立教ボラセン独自のプログラム

Part 1

有機農業の里として有名な上和田有機米生産組合との交流を図りながら、農・食・環境を考える農業体験 in 山形県高島町など、学生ボランティア活動の可能性を広げる、新たなフィールドの開拓・実践にも取り組んでいます。

PROGRAM 1 農業体験 in 山形県高島町

多量の農業散布で農作物を作ることが常識だった40年近く前、いち早くその害に気付き、有機栽培農法で稲作を始めたのが上和田有機米生産組合です。立教大学とは本プログラムで約30年にわたるお付き合いになります。多くの学生を育ててくれた高島の人々を通して、「土にふれ、食を見直し、共に生きる」ということまで思いを馳せる5日間です。日常を離れ、高島の豊かな自然や人としての本質的な生き方を実践している人たちとの出会いは、自身や既存の価値観を見つめ直し、今後の生き方を考えるきっかけとなるでしょう。



枝豆の収穫

特色ある立教の各種キャンプ

学習においては、座学によって理論や知識を習得する「キャンパス・エデュケーション」と実際の現場から学ぶ「フィールド・エデュケーション」、双方の連動が重要です。正課外教育プログラムの中核をなしてきた各種のキャンプやフィールドワークでは、学生が現場へ向き、他者との関係性を通じてアイデンティティや自立を獲得し、「共生」や「協働」といった考え方や態度を身に付けるようなプログラムを用意しています。フィールドワーク農業体験や奥中山ワークキャンプ、林業体験など、立教ならではのプログラムを通じ、あなた自身のキャリア形成につなげていきましょう。

PROGRAM 2 一貫連携教育 清里環境ボランティアキャンプ

緑豊かな八ヶ岳山麓の清里高原を拠点に、立教学院各校の小・中・高校生、大学生たちが共に取り組む自然保護活動です。一貫連携教育の中で各学校の構成員が集まる唯一のプログラムとして2004年から歴史を刻んでいます。大学生には、単に参加するだけでなく、自然環境保護の専門家（レンジャー）と共にプログラムを創り、実施する楽しみもあります。年代の異なる仲間とも協働していく楽しみ、自然の偉大さにふれながら自分もその自然を保護するという使命感などがあなたの活動を支えます。「他者」と関わることで、「自分」とも向き合える貴重な機会です。



清里の森の中で自然歩道の修復中

参加者の声

人生の「収穫」があった農業体験

農業体験 in 山形県高島町参加

私が農業体験に参加したきっかけは「学生時代にしか経験できないことを何かしてみたい!」という小さな想いからでした。その想いが、結果として自分に想像以上の大きな収穫をもたらしてくれました。生産者の立場に立つことで得られる農業の知識はもちろん、何よりもかけがえのない人達との素晴らしい出会いが私を待っていたのです。参加してこそ知り合えた学部学年を超えた友だち。初対面の私を、まるで家族の一員のように温かく迎えてくださった農家の方々。自分と違う境遇、考え方を持つ人達と関わるのが刺激を与えてくれ、自分の生き方を考えるきっかけになりました。自分が得られる「収穫」は何か? 是非皆さんも自分で参加して確かめてみて下さい。

卒業生
(文学部 史学科)
塚原 行哉さん



参加者の声

価値観が一変した清里キャンプ

清里環境ボランティアキャンプ参加

今回は「子どもと自然が好き」という単純な理由で清里キャンプに参加することになりました。ですが、元気いっぱいな子どもと一緒に遊んだり、泥まみれになりながら歩道を整備する活動を通して、童心に戻りとても楽しい時間を過ごすことができました。また普段は賑やかな小学生たちが、食事の前には真剣にお祈りする姿を見て心を打たれました。そこで食事や自然、人に対して常に感謝の気持ちを持ってはいけないという大切なことに気がきました。このような経験によって、今までの「ボランティアは誰かに何かをしてあげるもの」という価値観が変わり「ボランティアは自分が新しいことを学べるものだ」と考えるようになりました。

卒業生
(経済学部 経済政策学科)
鈴木 明日香さん



立教ボラセン独自のプログラム

Part 2

ボランティア活動

動くことで学ぶ・関わる

社会に参画する・創造する

PROGRAM 3 ボランティア初心者大歓迎！立教チームで参加する「1dayボランティア」

1dayボランティアは、「ボランティアに関心はあるけど、一人で始めるのは不安」「継続できるか心配なので、まずはお試し体験がしたい」という学生に対して、1日から参加できるボランティア活動の機会を提供するプログラムです。活動には、ボランティアコーディネーター（職員）も同行しますので、活動中に生じた問題や不安についてもその場でサポートいたします。2022年度は、「立教チーム」として参加できる活動を設定し、「東京都障害者スポーツ大会（陸上競技）」の競技運営をサポートするボランティア活動などに参加しました！



「ハガー」として活動した学生の様子

【東京都障害者スポーツ大会（陸上競技）】

「東京都障害者スポーツ大会」は、全国障害者スポーツ大会の派遣選手選考会を兼ねている都内最大規模の障害者スポーツ大会です。5/21(土)、22日(日)には知的部門の大会が、28日(土)には身体・精神部門の陸上競技が、駒沢オリンピック公園総合運動場で3年ぶりに開催され、学内で募集した学生14名とボランティアコーディネーター1名が「立教大学チーム」のボランティアとして参加しました。

知的部門：5/21(土)、22(日)

1日目に立教チームが担当した場所は、競技者の受付・招集エリア。競技開始前に受付をした競技者は、ゼッケンをつけ、自分が走る組・レーンに並ぶのですが、立教生はここで、ゼッケンが指定の位置につけられているかを確認したり、決められた順番に並べるよう誘導したりしました！

2日目の担当は、「ハガー」。「ハガー」は、走競技の際にゴール付近で待機し、ゴール後の競技者を受け止め、表彰場所までの誘導を行う役割です。ゴールしたことに気付かない競技者がいると、他の競技者と接触し、互いに怪我をすることがあるため、それらを未然に防ぐ、知的部門ならではの役割でもあります。

身体・精神部門：5/28(土)

身体・精神部門では、競技者の招集・誘導と競技結果の記録を担当。招集場所から離れたスタート地点まで誘導する際には、義足の方や車いすの方、視覚しょうがいのある方に対して、それぞれの進むスピードに合わせてながら他の競技中の選手と接触しないよう誘導していました。



参加者の声

招集の際、ご自身の手術の経験や今まで経験してきたことなどを年齢性別関係なく楽しそうにお話している方をたくさん見かけ、パラスポーツだけでなく日常的にもしょうがい者の方とお話をする機会を作れたらいいなと感じました。(文学部 文学科 3年)

一般的なスポーツ大会と比べて選手を直接的にサポートすることができ、選手を身近な存在に感じられました。また、「ハガー」という貴重な体験を通して選手とコミュニケーションを取り、選手一人ひとりの個性を感じることができました。選手が走り切った後に顔を合わせても、選手の心情を汲み取ることが難しく、どのように声をかけたらいいか悩む場面もありましたが、他のボランティアの方も一緒に声をかけてくれることも多く、安心してサポートすることができたと思います。(文学部 文学科 4年)

今まで福祉学科の授業でしょうがいの特性や支援等を学んできたが、実際の誘導の際の声掛けなどが難しかった。授業を通して映像や文字で学んできたことを実践するには、たくさんの経験を積む必要があると思うため、今後のボランティアにも積極的に参加していきたいと感じた。(コミュニティ福祉学部 福祉学科 2年)

100メートル走や1500メートル走など、よく見る競技も行われるなかで、障害者スポーツならではの競技、電動車椅子で行う楽しむためのレースがありました。競技者も、子どもから高齢者まで、100メートル走では義足を付けて14秒台くらいのタイムで走れる実力のある選手もいて、さまざまな人がそれぞれのやりかたでスポーツに取り組んでいて、障害者スポーツではそれが認められているのだなと思いました。(観光学部 交流文化学科 3年)

PROGRAM 4 同世代の若者へ震災の経験をつなぐ「3.11ユースダイアログ」

東日本大震災支援全国ネットワーク（JCN）が2019年から実施している『3.11ユースダイアログ』は、震災当時小中高生だった若者が「当時の出来事やその時感じていたこと」「現在に至るまでにどのような思いで人生を送ってきたのか」などを同世代の若者に伝えていくことで、東日本大震災の記憶や教訓などを次の世代や次の災害に繋げていく取り組みです。2022年度は、東日本大震災の復興支援に携わってきた学生サークル「立教Frontiers」のメンバー2名とともに「3.11ユースダイアログ実行委員会」に参画。JCNの岩手・宮城・福島の現地スタッフや東海・関西で震災支援に取り組む大学・団体などとともに、震災当時子どもだった世代の「語りの場」をつくる準備をしました。これまで大学の授業などで行われることが多かった「3.11ユースダイアログ」ですが、今回は全国版ということで、東京会場（立教大学池袋キャンパス）、愛知会場（日本福祉大学東海キャンパス）、大阪会場（大阪ボランティア協会）の各会場を拠点としながら、それぞれをオンラインで結んで同時開催。

東京会場となった本学では、小学5年生のときに東日本大震災で被災された川田 季代さん（福島県南相馬市小高区出身）をお招きし、震災当時の話からその後の避難生活などについて、お聞きしました。

立教Frontiersの学生は、会場設営・受付などの準備に加え、第一部の「ゲストスピーカーの話」での聞き手、第二部で行ったグループトークでのファシリテーターなど運営の多くを担いました。



活動の詳細は、ボラセン公式noteで記事を公開中!
https://note.com/rikkyo_volunteer/n/n5d1aa6c2e72d



参加者の声

震災の記憶を考える隣人であり続けたい 「3.11ユースダイアログ実行委員会」に参画

私は「3.11ユースダイアログ」の企画運営に携わりました。これは、東日本大震災を幼少期に体験した、私たちと同世代の方のお話を伺い、参加者同士で思いを共有し、語り合うプログラムです。私は被災された方の記憶と想いの行き場に、区切りやゴールはないことを改めて感じました。そして、言葉に表すことのできないほどの当時の過酷な状況が伝わり、語り継ぐ重要性を痛感しました。震災から今年で12年目を迎えます。私たちにとって、震災は歴史の一部となっていないでしょうか。復興していると言われていた被災地のみに目を向け、安堵していないでしょうか。10年を節目とせず、これからも震災の記憶を考える隣人であり続けたいと思います。

観光学部 交流文化学科1年/
立教Frontiers
宮川 桃子さん



学生コーディネーターの活動

【学生コーディネーターって何？】

学生の立場からボランティアコーディネーションを実践するプロジェクトです。ボランティア活動の魅力伝えたり、ボランティア活動に参加するためのきっかけをつくったりするなど、ボラセンのスタッフとともに、ボランティア活動の機運を高める活動に取り組みます。

2022年度に任命された第一期の学生コーディネーターは、自分たちの学生の視点をもとにボランティア活動やボラセンの運営に関するニーズや課題を考え、それを踏まえて様々な取り組みを生み出しました！

学生コーディネーターMISSION2022

私たち学生コーディネーターは、自分たちが感じるボラセンの課題を共有したうえで、活動の方向性を明確にするために『学生コーディネーターMISSION2022』をまとめました。

① ボランティアセンターの活動の見える化

現状としてボランティアセンターの中身（取組や人、情報など）が見えにくい状況にあり、学生がアクセスしにくいということが大きな課題となっているため、ボランティアセンターの活動やそこに携わる人などを広く知ってもらうことで、安心してボランティアセンターに入室できるようにしていく。

② ボランティアの魅力の再発見・発信

「ボランティア」という言葉の硬さ・分かりにくさ・特別感などが学生の中にあり、活動に参加するうえでのハードルが高くなっているため、一部の価値観に偏ることがないように、学生コーディネーター自身が「ボランティア」に対する考えを深めたり、その魅力を再発見したりしながら、それらを多くの学生に伝えていく。

③ 人と人をつなげるきっかけをつくる

ボランティア活動への一歩を踏み出しやすいような環境づくりに取り組むことで、学生が学内外に限らずコミュニティを広げ、多様な人とつながっていけるようなきっかけをつくっていく。



COORDINATION 1 十文字学園女子大学ボランティアセンターの見学



十文字ボラセンは、ボランティアをしたい学生が様々なボランティア活動に出会える場所になっており、そこでボランティアの魅力や楽しさを学内外へ発信するために活動している有志の団体が「学生スタッフ」なのだそう。互いの取組について情報交換した際には、両大学で共通する課題も見つかると、その課題に対してどのような工夫をしているのかなども共有することができました。今回の訪問で得た新しい活動を参考に、立教大学のボランティアセンターをもっと盛り上げていけるように取り組んでいきたいと思っております！

立教ボラセンをより多くの学生が利用しやすい環境にするためのヒントを得るため、「十文字学園女子大学ボランティアセンター（以下、十文字ボラセン）」を訪れ、設備を見学させていただいたり、ボランティアコーディネーターや学生スタッフの方などから直接ボランティアセンターの取組についてご説明いただいたりしました！

活動の詳細は、ボラセン公式noteで記事を公開中！
https://note.com/rikkyo_volunteer/n/n5d75cf7e1763



2022年度 学生コーディネーター

ボランティアによって「共助」の輪を広げたい

私が学生コーディネーターを始めたきっかけは、1年次に参加したボラカフェでした。コロナ禍で、外出自粛による孤立化が目立っていた当時、「ボランティアは、他者を支える活動ではなく、相互に支え合う活動」と聞き、ボランティアによって「共助」の輪を広げたいと感じました。コロナが落ち着き、学習支援や子ども食堂、地域イベントの運営等の活動に参加すると、活動先の子どもや高齢者の笑顔に元気づけられることが多くあり、まさに「共助」を実感しました。この経験を活かして、現在はボラカフェ等のボランティアへの第一歩を後押しする活動をしています。皆さんもぜひ、気軽にボラカフェに参加してみてくださいね。



法学部
政治学科3年
藤橋 唯さん



2022年度 学生コーディネーター

ボランティアの魅力がたくさんの人に伝えたい

私は、大学生になり「何か新しいことを始めてみたい」という思いから、ボランティアに興味をもつようになりました。「私なんか人の役に立てるのか。」という葛藤もありましたが、RSL（立教サービスマニシング）センターの授業で、ボランティアセンターの方のお話を聞いて、一歩踏み出すことを決めました。その後、ボランティアを経験していく中で、「ボランティアの魅力をたくさんの人に伝えたい!!」と思うようになり、学生コーディネーターの活動を始めました。2022年度に開催したボラカフェも「ボランティアの魅力を伝えて欲しい!」という思いから企画したものです。参加してくれた方に思いが伝わったという感覚があったため、活動に対するやりがいを感じられた回でした。より多くの人にボランティアの魅力を伝えられるように、これからも様々な企画をしますので、ぜひご参加ください!!



コミュニティ福祉学部
福祉学科2年
中村 文香さん



COORDINATION 2 「ボラカフェの開催」ゲスト：NPO法人good!



「ボラカフェ」は、カフェのようなゆったりとした雰囲気の中で、様々なボランティア活動に関する話が聞けるイベントです。実際にボランティア活動に参加した方との交流を通して、「ボランティア活動を身近に感じてほしい!」「ボランティア参加へのハードルを下げたい!」そんな思いから開催しています。



活動の詳細は、ボラセン公式noteで記事を公開中!
https://note.com/rikkyo_volunteer/n/ne5eb4f6e533f



「ボラカフェ～海外・国内ワークキャンプって何するの?～」では、全ての若者を対象に国内・海外ワークキャンプを自主開催している「NPO法人good!」の方をお招きしました!

当日は、スタッフに加えて、ワークキャンプに参加した経験のある学生にもお越しいただき、「実際にどんな活動をしたのか」「参加するまでにどんな経緯があったのか」などを直接お聞きしました。広島やモンゴルでの体験談を通して、「ワークキャンプ（日常を離れて現地に赴き、共同生活やホームステイなどをしながら地域の課題解決に取り組むボランティア活動）」でしか味わえない魅力に触れることで、ボランティア経験がない参加学生も具体的な活動のイメージをもつことができました。

バリアフリープロジェクト

【バリアフリープロジェクトとは？】

バリアフリーに関するイベントとして、2009年から、毎年「バリアフリー映画上映会」を開催してきましたが、多様な手段によるバリアの解消を目指す取り組み「バリアフリープロジェクト」として、2022年度に新たなスタートを切りました。withコロナの時代に、公募で集まった16名の学生メンバーが、社会の中で人々を分断する「バリア」とは何かを考え、自由な発想と行動力を活かして、その解消を目指しました。立教大学における新たな「バリアフリー」の取り組みのカタチを探っていきます。

2022年度の開催例 6月プロジェクトメンバー募集 8月キックオフミーティング
活動期間：2022年8月～各プロジェクトの終了まで ※2022年度中

キックオフミーティングでは、バリアフリー映画上映会で学生実行委員長を務めた先輩方から、当時直面した課題や活動を進める上でのアドバイス、コミュニケーションの大切さなど、貴重な経験をお話いただきました。学部学年、キャンパスを越えて集まったメンバー全員が、学生主体でプロジェクトを進めていくイメージを膨らませたところで、「社会にはどんなバリアがあるのか」を考えるグループワークを行いました。それぞれが日常生活で感じる“バリア”について、多くの考えや価値観を共有し、4つのテーマに分かれてプロジェクトチームが結成されました。

各チームの取り組み ① 解消しようとしたバリア ② 上記バリアに対する取り組み

TEAM 1 事物の(物理的な)バリア

1月オンラインで開催

広げよう、心のバリアフリー
～「しょうがいの社会モデル」とは？～

- ① 事物のバリアフリー化だけではない根本的な意識や取り組みの充実
- ② 心のバリアフリーを体現する上で欠かせない「しょうがいの社会モデル」という考え方について学び、社会にある様々な偏りについて共に考える企画を開催。バリアフリーマップの充実に向けて、WheeLog!アプリと車イスを活用した学内のバリアフリー調査も実施し、大学全体でバリアについて意識する流れが高まり、立教大学が誰にとっても居心地の良い場所になることを目指す。



学生の声

イベント実施のリアルな部分を体験

バリアフリープロジェクトは外部機関との交渉も含め、学生による裁量部分が大きく、学内企画の過程(審議など)など、学内イベント実施のリアルな部分が体験できることが魅力でした。コーディネーターが大人の目線でサポートしてくれる上、素敵なメンバーと水平的な関係性の下、協力しつつ、公私にも分けられない純粋な精神を養うことができ、自分の中で貴重な体験となりました。

人工知能科学研究科
修士2年
田中 雅希さん



TEAM 2 制度のバリア

12月池袋・新座各キャンパスで開催

ユニバーサルカラーについて学ぼう!

- ① 色の見え方が違うことにより感じられるバリア
- ② 色覚の差異を体験・認識するイベントを開催。スマホアプリ「色のシミュレーター」を活用し、色の見え方が違う中で指定された色のカラーボールを取るゲームを行い、ユニバーサルカラー等の解説パネルを用いて、学生の認知度が高まるように工夫。アンケートで集めた声をもとに、学内の掲示物作成に関するユニバーサルカラーのガイドラインを作成・配布することで、「誰もが見やすい掲示物のデザイン」を普及・浸透させることを目指す。



学生の声

自分の“当たり前”がひっくり返る面白い経験

2021年度はバリアフリーをテーマに映画上映会スタッフとして参加しましたが、2022年度は新しい試みとして私たちのグループでは「ユニバーサルカラー」をテーマとした活動を行っています!12月には池袋キャンパス、新座キャンパスそれぞれでカラーボールとスマホアプリを使ったゲームイベントを開催しました。そこで聞いた学生の意見を参考にしながら、掲示物の色のガイドライン作成が目標です!自分の「当たり前」がひっくり返る面白い経験ができました!!

文学部 文学科
フランス文学専修 2年
大久保 菜優さん



TEAM 3 慣行(文化)のバリア

1月池袋キャンパスで開催

～体験ワークショップ～
「やさしい日本語」を使ってみよう!

- ① 言語の違いによって起こっているバリア
- ② 学内にある日本語の標識を、外国人や留学生にもわかる「やさしい日本語」で考えたり、やさしい日本語を用いて会話する・小説を読むなどの体験ワークショップを開催。「日本で暮らす外国人が感じているであろうバリア」を解消し、多くの人に平等に情報が伝わるような社会にするために、やさしい日本語を普及し、その認知度を上げていくことを目指す。



学生の声

多くの人を巻き込んで作り上げる達成感

扱うテーマから自分たちで決めてイベントを企画するため、不安でしたが楽しみでもありました。試行錯誤しながら学ぶことができた、良い経験だったと思います。また、学内の先生方や外部の方へ協力の輪を広げていくのは大変でもありましたが、自分たちで多くの人を巻き込んで作り上げる達成感を味わうことができました。今回のプロジェクトを通して新たに発見することのできたバリアを、これからの自分の生活でも考えていきたいです。

文学部 文学科
日本文学専修 2年
宇津木 祐子さん



TEAM 4 観念(心)のバリア

12月メーザーライブラリーで検証(池袋)

配置自由の学習スペース

- ① 既存の学習空間から起こる物理的・精神的バリアの解消
- ② 椅子や机などの配置が固定されている学習環境が、グループワークの活発な対話を妨げているのでは? という疑問から、自由に配置できる可動式の机や椅子、バランスボール、座布団等を用意し、そのメリットを検証。



学生の声

私がこのプロジェクトに参加して良かったことは、バリアを知り減らそうとした経験を日常で活かしたことです。皆さんも頭で考えることはあると思います。例えば、あの人大丈夫かな、助けようかなといったように。ですが、実際に行動をする人はどのくらいいるのでしょうか。このプロジェクトで、目に映る・映らない障壁について考えることはそんな思いの背中を押す経験になると思います。是非トライしてみてください。

文学部 文学科
英米文学専修 3年
小林 紘大さん



1月新座図書館2F「しおり」で検証(新座)
ストレスフリーな学習空間

- ① 学習時の姿勢から生じるバリア
- ② 身体的・個人的(特に少数派)特性と、教室の机や椅子等の設備が合わないことで苦痛が生じるのでは? という疑問から、長時間の学習姿勢を制限・固定化させないバランスボール、エルゴクッション、バランスツール等を用意し、姿勢を変化させることのメリットを検証。



学生の声

私の中でバリアフリーは「高齢者やしょうがいのある人の生活における障壁を無くす」という固定観念がありましたが、このプロジェクトに参加したことで考えが変わったと感じます。プロジェクトを通して、学習時における身体的・精神的バリアについて検証や考察を重ね、年齢などの枠組みに関わらず「人」の日常にあるバリアを改めて見つめ直すことが出来ました。

観光学部
交流文化学科 3年
鈴木 七葉さん



※両キャンパスの利用者へのアンケートとヒアリングをもとに、学生の声として、学内の新たな学習空間・環境への提言としてまとめる。

地域・社会で活躍する立教生ボランティア

ボランティアセンターが主催している活動以外にも、学生サークルや地域団体など、様々な団体がボランティア活動を企画・運営しています。

活動分野や活動場所、活動に参加したきっかけなども多様です。

ここでは、学外に飛び出してボランティア活動をしている学生を紹介します！

CASE

1 世界的な問題を考えるきっかけに

NPO法人 NICE（日本国際ワークキャンプセンター）→ネパールワークキャンプ

私は、ネパールの小・中学校の子どもとの交流や学校の運営の手伝いをする2週間のワークキャンプに参加しました。プログラムの主催は現地のNGOですが、「NICE」という日本のNGOを通じて申込みをしました。この活動に参加したのは、アジア圏で私が経験したことのない種類のボランティア活動に参加したかったためです。

現地では、ホストファミリーと同じ食事をとったり、子どもたちに町の祭りを案内してもらったり、子どもの誕生日を祝ったりと、現地の方々の生活に近い体験ができました。一方で、滞在中には、道端にある大量のゴミや都市での深刻な大気汚染を目にすることもありました。

私が参加したような短いプログラムであっても、地元の人々の助けになれたり、子どもたちが外国人と交流する機会を与えられたりすると思います。また、困りごとや問題がある地域を訪れることができれば、世界的な問題について考えるきっかけになると思っています。



観光学部
交流文化学科 3年
福田 千珠さん

CASE

2 私にも社会をよりよくする力がある

活動先：NPO法人 Peace Field Japan “絆”KIZUNA プロジェクト

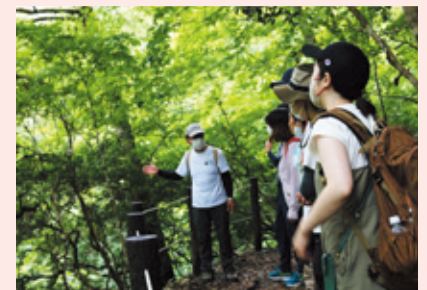
私が所属する「PFJ」では、イスラエル、パレスチナ、日本の青少年や留学生を対象とした里山体験プログラムを行っています。学生スタッフが中心となり、山梨県小菅村での環境保全の取り組みや体験を通して、参加者と共に持続可能な在り方について考える活動をしています。私はもともと国際交流に興味があったのですが、1年の夏にPFJのプログラムに参加して以来、小菅村の人の温かさと美しい自然、そこで活躍する先輩方の姿に惹かれてスタッフとして参加するようになりました。

活動する中で得たことは、私にも社会をよりよくする力があると思えるようになったことです。里山が抱える問題を参加者に伝えたり、自分の暮らしを振り返って対話をしたりする中で、参加者や私自身に新たな気づきが生まれ、その気づきが社会をよりよい方向へと変える一歩につながっていくと感じるようになりました。



社会人になっても、自分の考えをアップデートし多様な人と対話する場として、活動を続けていきたいです。

文学部 教育学科 4年
中村 奈生さん



CASE

3 団体の方々のサポートやルール管理がきめ細やか

活動先：一般社団法人 彩の国子ども・若者支援ネットワーク（アスポート学習支援）

私は現在、「彩の国子ども・若者支援ネットワーク」が行う、通称「アスポート」と呼ばれる活動に参加しています。生活保護世帯の子どもが対象で、学習支援を主な活動として行っています。学生ボランティアは小・中学生を担当することになっているのですが、どの子どもを教える・サポートするのは、その時いる子どもたちの様子に合わせて決まります。元々、ボランティア活動自体に何となく興味があったのですが、どの団体の活動が自分に向いているのかわかりませんでした。そこでボランティアセンターに相談に行ったところ、紹介していただいたものの一つにアスポートがありました。



団体の方々のサポートやルール管理がきめ細やかなので、トラブルの心配なく参加させていただいています。

文学部
キリスト教学科 2年
箕浦 紗月さん



ポール・ラッシュ博士記念奨学金

【ポール・ラッシュ博士記念奨学金とは？】

ポール・ラッシュ博士記念奨学金は、キリスト教の精神にもとづいて、地域、教会、病院などへの奉仕活動を生涯にわたって実践された、元本学名誉教授ポール・ラッシュ博士を記念して設けられました。この奨学金は、キープ協会在米後援会（キープ協会は、地域活動、キリスト教学生活動などの拠点として同博士が設立された機関です）、およびその他の有志によって寄贈された基金とその収益金をもとに支給されています。

ポール・ラッシュ博士の精神や生涯にわたる諸活動を記念し、本学学生に奉仕の精神に基づく諸活動（おもにボランティア活動）を奨励し、援助することを目的としています。

奨学金額は、年額合計70万円以内（給与奨学金）です。詳しい手続は、募集要項を参照してください。

ポール・ラッシュ博士記念奨学金に関する詳細な情報は、ボランティアセンターのwebサイトに掲載しています。

【主な掲載内容】 直近の募集要項・願書
ポール・ラッシュ博士について
歴代採用計画・受給者について など

https://spirit.rikkyo.ac.jp/volunteer/activities/report/SitePages/paul_rusch.aspx



【お問い合わせ先】
立教大学ボランティアセンター
池袋キャンパス：5号館1階
Tel. 03-3985-4651
新座キャンパス：7号館2階
Tel. 048-471-6682
Mail. volunteer@rikkyo.ac.jp

2022年度実績

※例年は春募集1回



春募集	出願期間：2022年5月10日（火）～27日（金）
	受給者：坂田 治哉さん（文学部 史学科1年） 計画名：「アグネス夏みかんのいえ」 支給額：100,000円
秋募集 （追加）	出願期間：2022年10月5日（水）～26日（水）
	受給者：細野 一斗さん（文学部 キリスト教学科3年） 計画名：「南インドNGOでのボランティア及び現地交流」 支給額：450,000円
	受給者：山田 亜実さん（観光学部 交流文化学科1年） 計画名：「MUP ペットボトルキャップ分別」 支給額：20,000円

よくある質問

QUESTION 1 これからボランティア活動をしようと思っているという学生も応募できますか？

はい。これから活動される予定の方も対象となります。

QUESTION 2 ボランティア活動の頻度、継続性はどの程度求められますか？ また、どのような内容が、対象と見なされますか？

頻度、継続性については特に定めていません。ボランティア活動は強制されたルールに従って行うものではなく、自発的に自分の意志で行う無償（交通費などの実費支給は除く）での活動で、内容は互恵性、社会性のある活動になります。企業の営利目的としたものは対象外となり、本奨学金は学生個人（学生団体）が中心となって行う活動を対象としています。

QUESTION 3 日本学生支援機構の奨学金との併給は可能でしょうか？

経済支援を目的としているJASSOの奨学金とは使途目的が異なりますので、併給は可能です。

QUESTION 4 活動計画書はどのようにまとめたらよいでしょうか？

書式は自由です。日程・動機・費用など含め2,000字以上で計画書を作成してください。過去の活動報告書はボランティアセンターで閲覧できますので、ぜひ参考してみてください。作成の際には、第三者にとって読みやすい構成としてください。大学教育開発支援センター作成のMaster of Writingを参考にさせていただくと良いと思います。

QUESTION 5 推薦書は、どのような方をお願いしたらよいでしょうか？

ゼミの担当教授、アカデミックアドバイザー、学科の教授（学科長、学部長）などをお願いするとよいと思います。活動を知らない先生でも、自ら説明することで推薦状を書いていただくことが可能です。既に活動中の方は学外の方でも良いので、関係する組織の担当者でも大丈夫です。文字数の制限はありませんので、書いてくださる方のご判断で結構です。

※注意：推薦者の署名（自筆）・押印（スタンプ印不可）が必要です。外国語の場合は、日本語訳も必要となります。

受給者の声

奨学金のおかげで 安心して活動に集中できた

ボランティアを運営するというのは想像以上に苦労が多いものでした。2022年の3月にこの活動を始めたときは、あるのは教会という活動場所だけで、お金も、人も、何もかもが足りないままに見切り発車で活動をスタートさせました。活動を進めながら、最低限必要な資金をどうしようかと考えていた中、このポール・ラッシュ博士記念奨学金を知りました。実績も法人格もない団体でも申請できるというのは何とも恵まれた条件です。少し探してみると分かりますが、この奨学金のような支援をしてくれるところは、恐らく日本中探してもありません。私にとっては大きなチャンスでした。まずは、一年間、活動のための資金集めに悩むことなく、安心して活動に集中できるというアドバンテージは計り知れませんでした。問題はまだまだ山積みですが、ポール・ラッシュ博士記念奨学金の後押しで、地域の子どもたちを楽しんでもらえる活動を一年間提供できたことを嬉しく思います。

文学部
史学科 1年
坂田 治哉さん



受給者の声

本当の支援とは、 対等な関係を構築し共に生きること

私は、この奨学金を受け、南インドのNGO団体シーズ・インディアでボランティアスタッフとして活動しました。この団体は、カースト制度から排除されたダリットの人々を支援しています。ここでは、私がこの団体から学んだ対等な関係の構築の重要性について書かしてもらっています。私は、この活動に従事している中で、この団体が築き上げた多くの対等な関係を目にしました。特に印象に残ったことは、ダリットの人々が食料や文房具を受け取った後すぐに帰らず、その場において、片付けの手助けや、スタッフと世間話を楽しんでいたことです。そこには、支援する側とされる側の区別がなく、人々が共に生きていました。本当の支援とは、一方的な支援をするということではなく、対等な関係を構築し共に生きることであることを知りました。この私の発見が、今後ボランティアに従事しようとする人々の何かしらのヒントになればいいと思います。

文学部
キリスト教学科 3年
細野 一斗さん



ボランティアセンターとつながろう

「あなたの当たり前って本当ですか？」

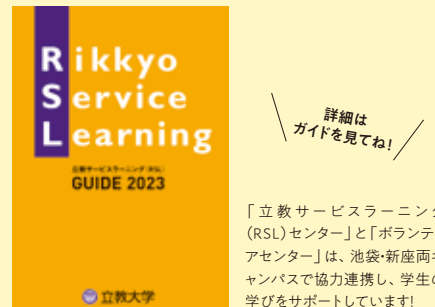
全カリ立教サービスラーニング (RSL) 科目を履修して、社会という「フィールド」に飛び出そう!!

キリスト教精神に基づく教育を展開する立教大学では、建学の精神のひとつとして、「共に生きる」という思想を大切にしています。人々に寄り添い、共に活動することを通して、本学の学生が様々な価値観や文化を知り、社会を担う一人の市民としての力を養ってほしいと考えています。このことを正課教育科目で学修できるのが立教サービスラーニング (RSL) です。

RSLでは、大学というキャンパスでの学びと社会とのつながりをRSLセンターが提供する「フィールド」を活用することで往還させながら、学生個人の学びをより深めてほしいと考えています。

また社会の現場で活動することは、学生個人のなかにある「当たり前」を問い直すことでもあります。社会のなかにある「多様性」を認識し、自分はこれから「どんな場所で」、「どのように生きていくのか」、「どんな現実があるのか」等を問うことは、あなたの将来のテーマをみつけるきっかけになるかもしれません。

立教大学ならではの特色ある科目にぜひ、チャレンジしてみてください!



詳細はガイドを見てね!

「立教サービスラーニング (RSL) センター」と「ボランティアセンター」は、池袋・新座両キャンパスで協力連携し、学生の学びをサポートしています!



2018年度「RSL-グローバル (フィリピン)」現地での一場面

【陸前高田グローバルキャンパス (サテライト)】

本学は東日本大震災の復興支援活動に取り組んできました。特に震災前から「林業体験」を通じて友好関係を深めていた岩手県陸前高田市を「重点支援地域」に指定し、同市をフィールドとした多様なプログラムを実施しています。2017年には岩手大学と協働で交流活動拠点「陸前高田グローバルキャンパス (サテライト)」を開設し、市民の皆さんはもちろん、学生や研究者といった大学関係者、企業や行政関係者など多くの人々が集う空間、そして相互の交流が生まれ、かつ深められる空間として活用されることを目指しています。多くの学生が同市を訪れることができますよう、一定の条件を満たした場合に交通費・宿泊費の一部を援助する制度も用意しています。



頼れる情報源はコチラ

ボランティアセンター webサイト

<http://s.rikkyo.ac.jp/volunteer>

ボランティア団体の皆様・一般の方向けの情報を掲載しています。

在学生専用

SPiRiTボランティアセンター webサイト

<https://spirit.rikkyo.ac.jp/volunteer/>

立教生のみアクセスできる情報を掲載しています。

Eメールでのお問い合わせ

volunteer@rikkyo.ac.jp

ボランティア活動に関すること、相談の予約等を受け付けています。

ボランティア情報ファイル

ボランティアセンターでは、団体情報、活動内容の資料を提供します。

メルマガ (月1回、月初に発行)

ボラセンからのお知らせやボランティア募集情報・イベント情報などを配信しています。

●メルマガ登録申し込みフォーム

<https://forms.gle/FVFFB5wEH77y8qGs9>

※立教Gmail (学生番号@rikkyo.ac.jp) にお送りします。携帯電話、個人アドレスは登録できません。

ボランティアセンター掲示板

池袋キャンパスは5号館1階、新座キャンパスは7号館2階に常設掲示板があります。学内立て看板、学内掲示ポスター、立教時間などをご覧ください。

ボランティアナビ

ボランティア募集情報の閲覧サイト

センターに届くボランティア募集情報を、ネット上でも閲覧することができます。

V-Campus 利用者のみ閲覧可。ログインにV-Campus のID とパスワードが必要です。



note

メールマガジンの配信、立教生のボランティア活動の「今」を知ることができる情報等を随時紹介しています。

ぜひご覧ください!

https://note.com/rikkyo_volunteer/



SNS 情報

Twitter アカウント @rikkyo_volucen

Instagram アカウント rikkyo_vc



Twitter

Twitter & Instagramもやってるよ!



Instagram



ボランティア保険について

ボランティア活動中に本人がケガをしたり、他人に損害を与えた場合に補償する保険です。近くの社会福祉協議会で加入できます (年間350円～、年度ごとに更新)。また国際ボランティアに参加する方は、長期・短期にかかわらず海外旅行保険に必ず加入しましょう。



立教大学 ボランティアセンター

ボランティア活動に関して何でも気軽に相談してください。
多数の情報はもちろん、ボランティアに関するパンフレット、
さらには交流の場に活用できるスペースも用意しています。

池袋キャンパス



〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1
TEL 03-3985-4651 FAX 03-3985-4657
開室時間 月～金 9:00～17:00
※開室時間は、池袋・新座両キャンパス共に変更になる場合があります。

池袋・新座共通メールアドレス volunteer@rikkyo.ac.jp

新座キャンパス



〒352-8558 埼玉県新座市北野1-2-26
TEL 048-471-6682 FAX 048-471-7312
開室時間 月～金 9:00～17:00

立教大学ボランティアセンター 2023年度 ボランティアガイド

発行：2023年4月

発行者：立教大学ボランティアセンター

池袋キャンパス

〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1

TEL. 03-3985-4651 FAX. 03-3985-4657

email : volunteer@rikkyo.ac.jp

新座キャンパス

〒352-8558 埼玉県新座市北野1-2-26

TEL. 048-471-6682 FAX. 048-471-7312

印刷：株式会社太平社

web : <https://spirit.rikkyo.ac.jp/volunteer/SitePages/index.aspx>